

平成26年3月10日

水噴出装置付きハンディ窓洗いワイパー「明和君」の製作

乙部町立明和小学校

教頭 佐々木 朗

1 はじめに

本校は、日本海を見下ろす乙部町しびの岬の頂上付近に位置し、とても見晴らしの良い場所に立地している。したがって、日本海から吹き付ける風の強さも半端ではなく、潮風により学校の窓の汚れは、内陸地の学校と比べると非常に大きいものがある。

1階は、水道のホースを持ちながら、また、バケツの水にスポンジをつけながら、長い柄のついたスポンジとワイパーで窓洗いをしていた。ところが2階は、長い柄でも届かず、ワイパーを柄から外し、水を入れたバケツと共に窓枠に上り、中窓、外窓を半分ずつ、両方向から掃除をしていた。

時がながれて、この冬、NHKのおはよう日本の「まちかど情報室」でおもしろい商品が紹介された。水をいれたペットボトルの口に取り付け、ペットボトルを握ると、スポンジ付きワイ



パーの先から水が出るという優れたもの。ミーハーな私は、すぐに得意の通信販売で手に入れた。

今まで、半分ふいては、バケツで水をスポンジに含ませ、ポタポタ水を垂らしながら、窓ふきをしていたのに比べ、格段作業は楽になった。ただ、人間とは欲深いもので、何回もペットボトルを握るのが疲れる。スポンジの幅がイマイチ小さいなどの課題が出てきた。私は、それまで使っていた幅が広いスポンジ&ワイパーから何とか自動的に水が出ないものかとずっと考えていた。

2 「そうだ、噴霧機があるではないか。」

以前の私のレポートを読んだ方は、この噴霧器でピーンと来た方もいらっしゃるかもしれないが、前の学校の住宅がポットトイレで、ウォッシュレットに慣れていた私は、耐えられなかった。教頭になってあらゆることが忙しい中、工作にぽつんとイレのウォッシュレット化に取り組んだのである。水道の代わりに、噴霧器の圧力を利用して水をウォッシュレットに送り、快適なトイレ生活を送ることができた思い出がある。

だから、噴霧器の圧力でスポンジの

先から水が噴き出すようにするという構想は最初からあった。しかし問題は、噴霧器の水の制御と、スポンジへの取り付けである。水のレバーをがっちりワイパーに取り付けなければならない。もちろん水漏れは許されない。通常レバーを持ちながら作業することになり、がたがたしては、きれいに窓を拭くのに支障をきたすことになる。

私は、ワイパーの根元と噴霧器の先端を日用品センターでじっくり観察していた。

3 噴霧器のホースやレバーをそのまま生かしながら

日曜日に江差で見つけた圧力式噴霧器は980円と安かったこともあり、「失敗したら仕方がない。」という気持ちで購入した。また、スポンジ&ワイパーは、長い柄につける交換用のものを購入した。680円であった。噴霧器の先端のパイプを適当な長さに切断し、先端をビスで栓をし、横に2カ所ドリルで穴を開けた。ここから水を噴出させようとしたのである。

また、プラスチックでできた柄をレバーがうまく入るように、糸鋸で切断



しながら加工した。噴霧器のパイプは、柄の先端にドリルで穴を開けて通した。レバー部分と加工したワイパーの柄の部分は、比較的ぴちっとはまったが、多少ぐらぐらした。そこで、水道のホースを蛇口に連結する時、水漏れを防ぐためのホースバンドでがっちり締め付けた。これで全くがたつくことなく、レバー部分とワイパー部分が一体化された。

4 使い心地

4リットルの噴霧器に水を入れ、レバーの上下を何回かして、圧力をかける。それを肩にかけ、実際に2階の教室の窓を洗ってみた。レバーを握ると気持ちよく水が噴き出す。噴霧器なの



で勢いが強すぎるかと心配もしたが、試してみると適度な噴出具合であった。

レバーを押しながら水を出し、スポンジでこびりついた塩の汚れを洗い落とし、レバーから手を離し、水を止めてワイパーで丁寧に水を拭き取る。きれいになった窓は非常に気持ちのいいものである。その上、以前バケツにワイパーをつけた時のように乾いた時のきたない拭き残しがない。十分

な水で汚れを洗い流せるためである。窓掃除が楽しみになった気もする。明和小で開発したのでこの水噴出装置付き窓洗い機を「明和君」と名付けることにする。調子に乗って2階の窓から明和君共々落ちないことようにすることだけは、十分に気をつけたい。



5 最後に

「必要な発明の母」という言葉があるが、物事現状に満足してしまわないこと、もっとよい方法がないか考えてみること、うまくいくかどうか自信がなくてもやってみることの大切さを改めて感じた今回の日曜工作であった。工作の所要時間約1時間。

ドリル、リマ、のこぎり、サンダー、明和に来てからあれこれ工具が増えて、工作をしやすい環境になったこと

も「やってみよう」と思った要因の一つである。退職後は、広めのガレージを建てて、私の作業場にしたいと考えている。

私の技術はまだまだ「それなり」である。それなりながら、明和でも小さなものからちょっと大きなものまでいろいろ手がけた。試行錯誤しながらも、うまくいったちょっとした工作や修理のひとつひとつの成功、そして失敗もそれなりの数。そういう経験が確実に自分の技術になっていくことがわかる。

工作は、おもしろい。DIYは楽しい。これからも、目についたことは、「何とかもっと便利にならないかな。」という目を持って、学校を、地域を、公宅をよりよいものにしていき



たい。